

# 名城大学環境ガイド

〔環境報告書〕

## 2006

グリーンキャンパスの創造に向けて

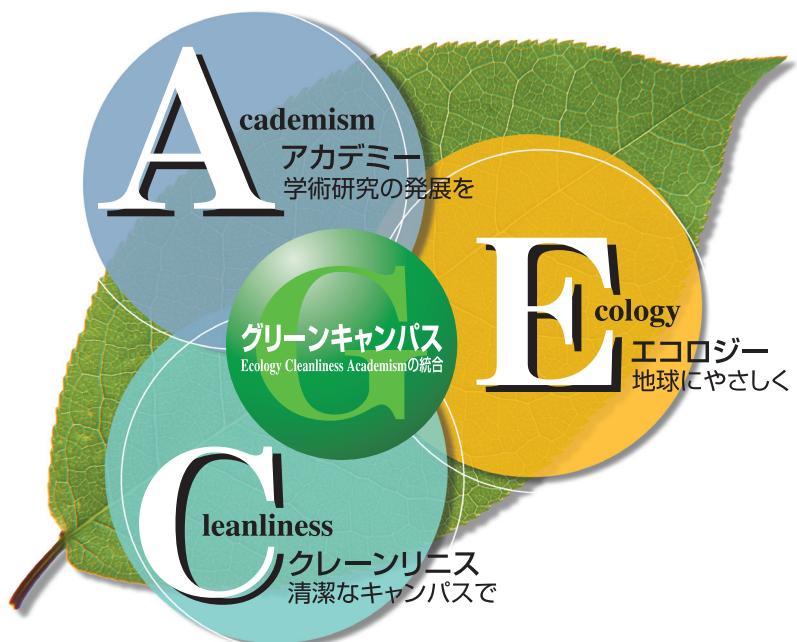
# グリーンキャンパスの創造に向けて

名城大学は、地域のみならず  
我が国における教育研究のリーダーとして  
「環境の21世紀」にふさわしい  
環境を創造するために、持続的に発展可能な  
循環型社会と文化の構築に寄与し、  
教育研究をはじめとする全ての  
活動において、「環境」に配慮した  
キャンパス運営に挑戦しています。



## index

名城大学の環境マネジメントシステム（EMS）	2
環境方針	2
名城大学環境マネジメントシステム組織図	3
取り組み目的・目標および行動	3
2003年度 環境マネジメントシステムの活動状況	4
廃棄物の分別	5
キャンパス内での廃棄物処理	5
キャンパス外（自宅、地域）での廃棄物処理	7
環境報告書	9
1.省エネルギー	9
2.省資源	9
3.廃棄物排出量	10
4.地球温暖化	10
5.PRTR対象化学物質	10
特別報告	11





# 環境マネジメントシステム(EMS)

2002年6月にISO14001を認証取得し、環境に配慮した教育、研究、経営に向け、その第一歩を踏み出しました。

ISO14001とは、国際標準化機構(ISO[International Organization for Standardization])が1992年の地球サミットの取り組みに関連し、環境に関する国際的な枠組みを検討する必要を確認し、1996年に発行した環境マネジメントシステム(EMS)に関する国際規格です。

ISO14001は継続的に実施・改善するPlan(計画)、Do(実施)、Check(点検)、Action(見直し)のシステムです。

## 環境方針

名城大学の環境マネジメントシステムの対象範囲は天白、八事、可児の各キャンパスに附属農場、附属高等学校、日進グラウンドを加えた全キャンパスになります。

### 名城大学環境方針

#### ● 環境理念

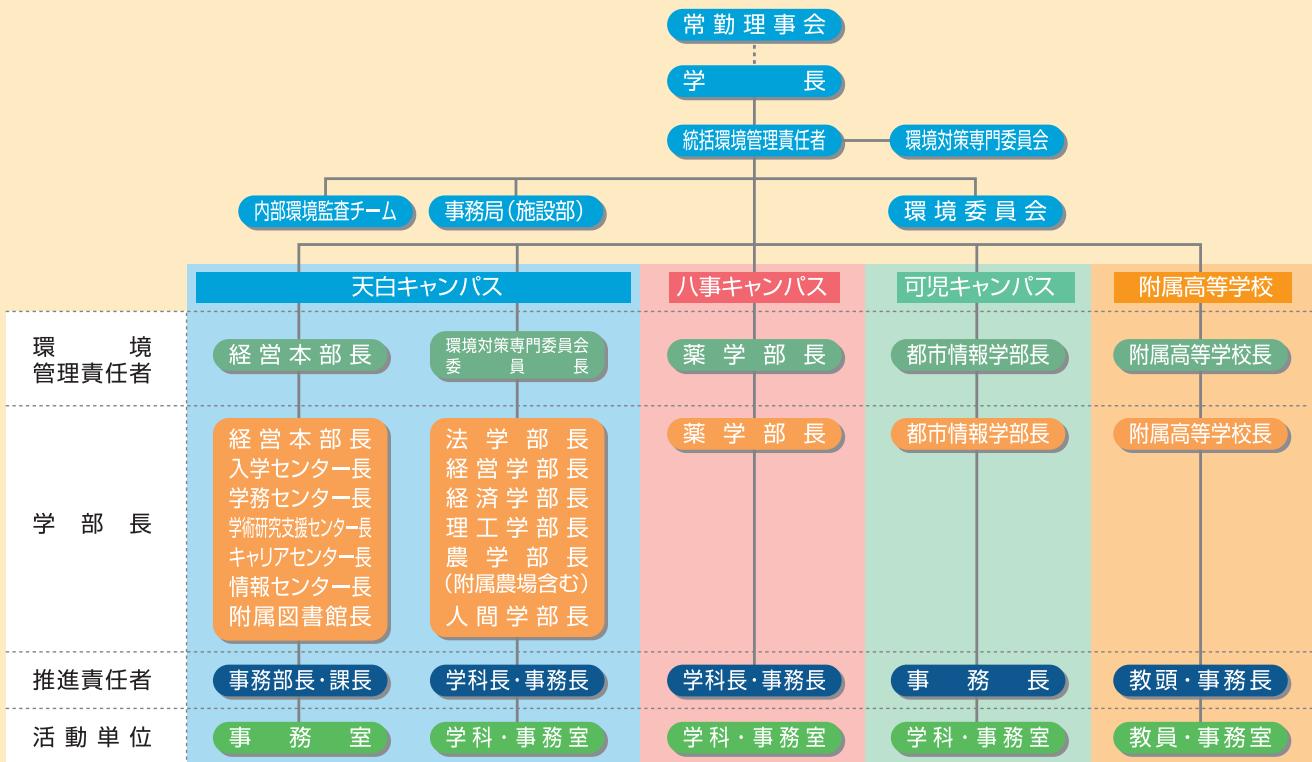
名城大学及び名城大学附属高等学校は、情報化、高度化、国際化する社会の要請と、「環境の21世紀」に応えられる教育研究を推進し、持続的に発展可能な循環型社会の形成に寄与する人材の育成に努めます。

#### ● 環境方針

- ① 地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
- ② 環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
- ③ 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取り組みます。
- ④ 教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を遵守し、汚染の予防に努めます。
- ⑤ 内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- ⑥ 環境方針を達成するため、環境目的、目標を設定し、定期的に見直します。
- ⑦ 環境方針は、インターネットホームページで公開します。

平成15年4月1日  
名城大学学長 兼松 顯

# 名城大学環境マネジメントシステム 組織図



## 環境方針の具体的な行動

環境方針を具体化するための目的及び皆さんがあなたが実施する行動が次の事項です。皆さんに配布した「環境方針カード」の裏面に、" あなたが実施する行動 " の欄から3つ選択し、記入して下さい。

目的	皆さんがあなたが実施する具体的な行動
省資源の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>両面コピーやミスコピー用紙の裏面利用を心掛ける。</li> <li>実験に使用する水や手洗い水は、流し過ぎない。</li> <li>漏水を発見したら直ちに事務室に連絡する。</li> </ul>
省エネルギーの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後に教室、実験室、トイレ等から退出する時は、消灯する。</li> <li>暖房、冷房使用時は教室、実験室等の扉、窓を閉める。</li> <li>最後に教室、実験室等から退出する時は、エアコンを切る。</li> </ul>
一般廃棄物の適正管理と減量	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物は、分別して個別のダストボックスに入れる。</li> <li>コンビニで購入した弁当等はコンビニのゴミ箱に入れる。</li> <li>紙類は、紙専用ボックスに入れる。</li> <li>タバコの吸殻は指定の灰皿に捨て、歩行喫煙を行わない。</li> </ul>
産業廃棄物の適正管理と減量	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験廃液は、定められた容器に保管する。</li> <li>実験で発生した廃棄物は指定された容器、場所に保管する。</li> <li>クラブ活動での廃棄物は回収日に指定された場所に持ち込む。</li> </ul>
環境に係る教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境関連科目を積極的に受講する。</li> <li>キャンパスクリーン活動に積極的に参加する。</li> <li>環境フォーラムに積極的に参加する。</li> </ul>

### 環境方針カード



この中から記入して下さい。

自己の環境方針を  
環境方針カードに  
記入して、学生証とともに  
常に携帯してね!



## 2004年度 環境マネジメントシステムの活動結果

目的	目標	目標値	活動状況
環境に係わる教育活動の推進	環境関連科目の継続的開講	開講率100%	開講要覧や時間割通りに実施し、100%開講しました。
	環境関連教育の充実 <sup>*1)</sup>	充実度50%	充実度50～88%であり、科目数や授業時間を増加し、講義内容を改善しました。
	環境科目の定期試験受験率の向上 <sup>*2)</sup>	受験率70%	受験率85～93%であり、毎年目標値を維持しています。
	環境意識調査の実施	実施率50%	50～100%実施しました。学生の環境意識向上に資しています。
	実験科目での環境保全指導の徹底	実施率100%	理系学部で実験手引書を作成し、100%実施しました。
	環境行事への支援	1回／年	学生会と協同して、キャンパスクリーン活動を天白は11回、八事は2回、可児は1回、附属高校は23回実施しました。
	大学祭での廃棄物処理の指導	1回／年	各キャンパスで、大学祭前に廃棄物処理と騒音抑制の指導、大学祭後に反省会を実施しました。
	環境フォーラムの開催	1回／年	「EMSの継続的な改善—認証登録3年を経過して—」のテーマで2005年4月実施しました。
環境に係わる研究活動の推進及び研究成果の公開	公開講演会の積極的開催	10回／年	公開講演会、シンポジウム、発表会、総合講座等を各キャンパスの合計で10回実施しました。
	学外公開講座、出前講義の講師派遣の記録	100%記録	講師派遣の記録は各学部で整備済みであり、環境関連の講座、講義に講師を10名派遣しました。
省資源の推進	コピー用紙購入量の削減	5%削減	ミスコピー用紙の裏面活用、両面コピー、会議資料配布数の適正配布等を推進していますが、天白8%増、八事6%減、可児11%減、高校6%増でした。
	水使用量の削減	天白：10%減、その他：2%減	漏水対策や女子トイレの擬音装置を導入し、天白は市水21%減、井水13%減、八事は市水15%減、可児は市水6%増、高校は市水3%減でした。
	PRTR対象化学物質使用量の削減	1%削減	使用量の合計は6%増加しましたが、一化学物質の使用量は少なく、行政への報告は不要でした。
省エネルギーの推進	電気使用量の削減	2%削減	不在時消灯、室温の適正管理等を行っていますが、酷暑の影響を受け、天白4%増、八事6%増、可児1%増、高校3%減でした。
	ガス(LNG,LPG)使用量の削減	3%削減	室温の適正管理を行っていますが、酷暑の影響を受け、天白3%増、八事22%増、可児7%増、高校13%増になりました。
	重油・灯油使用量の削減	3%削減	室温の適正管理を行っていますが、酷暑の影響を受け、天白9%増、八事4%増、可児7%増、高校38%減でした。
グリーン購入の推進	古紙配合率100%PPC用紙の購入	購入率100%	古紙配合率100%PPC用紙の購入率は全学で100%でした。次年度は印刷用紙の古紙配合率100%使用の活動に変更します。
一般廃棄物の適正管理	廃棄量の削減	10%削減	容量からの見込み計算を重量の実測に変更したことや紙類のリサイクル化運動の推進により、廃棄量は74%減少しました。
産業廃棄物の適正管理	廃棄物管理マニュアル、環境ガイドの定期見直し	1回／年	薬学部は排水異常の指摘を受け、廃棄物管理マニュアルを改訂しました。環境ガイドは電気、水、燃料等の使用量の推移を追加しました。
	保有薬品リストの作成	作成率50%	農学部、都市情報学部及び附属高等学校は保有薬品のリストを作成しました。

\*1)環境内容を含んだ講義時間数／全講義時間数 \*2)受験者数／履修者数



# 廃棄物の分別

クリーンなキャンパスを自分達の手でつくろう!! そして廃棄物“ゼロ”化を目指します。

## キャンパス内での廃棄物

### 1 廃棄物の分別方法

#### 天白・八事キャンパス

##### 燃やせる物

生ゴミ、木屑、ティッシュ、紙製のトレイ、写真、紙等



##### 燃やせない物

ビニール類、ゴム製品、ガラス、カップ麺容器、プラスチック製容器、フロッピーディスク、ボールペン、ストロー、ペットボトルのキャップ、菓子類包装袋、コンビニの袋



##### ペットボトル

プラスチック識別マークが下記のように△のものに限定。(キャップを取り、中身を洗浄し、つぶす。)



##### ビン・缶

飲料用ビン・缶類(キャップを取り、中身を洗浄)  
スプレー缶(穴を開ける)  
薬品ビンは絶対に入れないでください。



##### 紙専用

新聞、雑誌、コピー用紙、講義用プリント、ノート、リーフレット、パンフレット、チラシ、厚紙、封筒(窓付封筒は除く)



#### 可児キャンパス

##### 燃やせる物

生ゴミ、木屑、ティッシュ、紙製のトレイ、写真、感熱紙、剥離紙等、ビニール類、カップ麺容器、ストロー、ペットボトルのキャップ、プリン・インスタント食品の容器、キャンディ・菓子類の包装袋、コンビニの袋、プラスチック製の容器



##### 燃やせない物

ガラス、陶磁器、金物類、プラスチック製の大型ボックス等



##### ペットボトル

プラスチック識別マークが下記のように△のものに限定。(キャップを取り、中身を洗浄し、つぶす。)



##### ビン・缶

飲料用ビン・缶類(キャップを取り、中身を洗浄)  
スプレー缶(穴を開ける)  
薬品ビンは絶対に入れないでください。



## 2 紙類のリサイクル

各号館ホールおよび特定個所に設置された紙専用回収ボックスに入れてください。紙専用回収ボックスには紙以外のものは入れないでください。

### リサイクル可能な紙

レシート、新聞、雑誌、コピー用紙の他、授業中に配布されたプリント、厚紙、ハガキ、封筒（セロハン系の窓付き封筒は不可）、チラシ、リーフレット、パンフレット、ノート、紙製のフラットファイル（止め具は除く）、紙製菓子箱（平に広げる）等も可能。

### リサイクル不可能な紙

写真、油紙、トレーシングペーパー、紙コップ、粘着テープのついたもの、プラスチック製のファイル、使用済みのチリ紙、クリップ、ビニール・ゼロハン系の袋、タバコの吸殻、牛乳パック（牛乳パックは洗浄し切り開いて、近くのスーパー等に持参）



## 3 自動販売機紙コップ

学内自動販売機設置個所にはデポジット機（紙コップ回収専用機）が設置されていますのでその中に入れて下さい。

## 4 産業廃棄物

実験廃液、廃棄実験器具類（ガラス・プラスチック・金属）、実験動物の屍体、注射針等の感染性廃棄物、コンクリートくず、機械系の実習で排出された金属くず、不要什器機器類、体育系クラブ団体の活動用道具等。

	種類と内容物	分別・回収
実験、研究で排出	廃プラスチック類（プラスチック類、ディスポ製品、ゴム製品等、滅菌したプラスチック類）	研究室もしくは廃棄物保管庫で指定したダンボールに保管
	ガラスくず（シャーレー、試験管、陶磁器類、滅菌したガラス類）	研究室もしくは廃棄物保管庫で指定した容器に保管
	廃薬品、廃油、廃液	研究室もしくは廃棄物保管庫で指定した容器に保管
	コンクリートくず、金属くず	指定場所に保管
	薬品びん	研究室にて保管
活動用具団体	金属物（不用な什器、OA機器等）	各クラブ室で回収日まで保管
	運動系の用具、木製什器、プラスチック系の什器類、イス	各クラブ室で回収日まで保管

※研究室内での排出物は該当教員の指示、クラブ団体での排出物は学務センターの指示に従い絶対に一般の分別ボックスには入れないでください。

## 5 放置自転車

駐輪場は通学用のために自転車を置く場所です。決して不用な自転車を本学の駐輪場に放置しないでください。

\*放置自転車には、原動機付自転車を含みます。

# キャンパス外(自宅、地域)での廃棄物

## 名古屋市の廃棄物の出し方・分け方

### 資源とごみの分け方・出し方一覧表

資源	ステーション(地域の集積場所)収集 週1回	プラスチック製容器包装		資源用指定袋に入れて <small>注) プラスチック製容器包装だけで一袋にしてください。</small>
		紙製容器包装		資源用指定袋に入れて <small>注) 紙製容器包装だけで一袋にしてください。</small>
		ペットボトル		資源用指定袋に入れて <small>注) ペットボトルだけで一袋にしてください。</small>
		空きびん		袋へ入れずに直接、青色のかごへ <small>注) びんは横にして入れてください。</small>
	曜日	空き缶		資源用指定袋に入れて <small>注) 空き缶だけで一袋にしてください。</small>
				袋へ入れずに直接、黄色のかごへ
	拠点回収	紙パック		袋へ入れずに直接、スーパー・区役所などの回収ボックスへ
		ペットボトル		袋へ入れずに直接、スーパー・コンビニ・区役所などの回収ボックスへ
	スーパーなどの営業時間内ならいつでも出せます。			学区・子ども会などで取り組まれている集団資源回収や、リサイクルステーション、古紙リサイクルセンターなどを利用しましょう

資源は、中をさつとゆすいで、それぞれの種類ごとに分けて出して出してください。

ごみ	原則として各戸収集 週2回	可燃ごみ		可燃ごみ用指定袋に入れて
		不燃ごみ		不燃ごみ用指定袋に入れて
	スプレー缶類 週1回	スプレー缶、カセット式ガスボンベ		資源用指定袋に入れて <small>不燃ごみの収集日に、不燃ごみと別にして(少し離して)出してください</small>
	粗大ごみ(有料) 月1回	30cm角を超える大型ごみ		収集日の1週間前(前の週の同一曜日)までに受付センターへ電話でお申し込みください <b>フリーダイヤル ナ ゴ ヤ コ ミ ゼ ロ 0120-758-530</b> <small>(おかげ間違ひのないようにお願いします)</small> 受付時間午前9時~午後5時【土・日曜日、年末年始を除く】 ※祝日・休みも受け付けています

\* 地域の事情により、ステーション(集積場所)へ持ち出している場合があります。

●エアコン、ブラウン管テレビ、電気冷蔵庫、電気洗濯機は、「家電リサイクル法」に基づき家電小売店で引き取ります。(市は収集しません。)

引っ越し等で購入した小売店が遠方になったり、廃業していた場合は…**家電リサイクル受付センター 482-3167へ**

※今後、法令改正に伴い対象品目が追加される場合があります。  
(おかげ間違ひのないようにお願いします)

# 可児市の廃棄物の出し方・分け方

**可児市  
保存版**

# ごみ・リサイクル資源の分け方・出し方

ごみ・リサイクル資源でご不明な点は…  
**可児市役所 環境課**  
(TEL62-1111)

◎もえるごみ収集日

(ご自分の地区の収集日に  
○をつけて下さい)

毎週  
**月・木曜日**  
**火・金曜日**  
**水・土曜日**

◎もえないごみ・粗大ごみ・リサイクル資源収集日

種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ガス器具・瓶(瓦斯・液化瓦斯)	●											
金物類・粗大ごみ		●										
カン・ベット・トレイ資源			●									
陶磁器類				●								

(毎年度の日程表からご自分の地区的ものを切り取り貼ってください。)

●ごみ・リサイクル資源は決められた収集日の朝8時までに、決められた場所に出してください。

(朝8時前に終了するリサイクルステーションもあります。)

●年末年始の収集日についてでは「広報かに」12月1日号でお知らせします。

**Step.1** まずは、あなたが出したいごみの中から、次のリサイクルできるものは分けてリサイクルステーション等へ出しましょう。



◎ささゆりクリーンパークで処理できないもの

- 火気・爆発性のあるものは収集しません。(プロパンガスボンベ、塗料、バッテリー、トナー等)
- 医療廃棄物及び農薬(注射針、感染性の疑いのある屍体物、除草剤、消毒薬等の薬品)
- 破碎処理できないもの(鉄骨、鉄板、自動車等のタイヤ、エンジン付農機具、バイク、商業用冷蔵庫、ホーロー浴槽、土砂類、ボウリングの球、家庭用耐火金庫、ピアノ、電動自転車等)

\*販売店・取扱店・専門の処理業者等に相談し、処理してください。

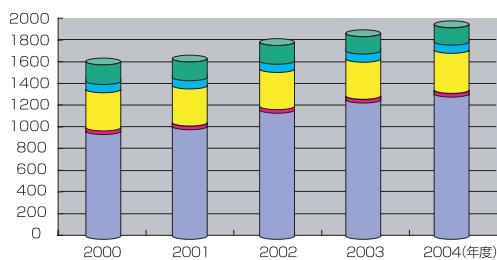


# 環境報告書

## 1 省エネルギー

### 1) 電気

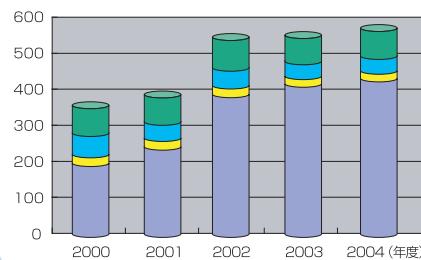
使用量(万kwh)



電気使用量は3%増加しました。増加の原因は、酷暑の影響が大きく、夏季の冷房期間（6～9月）を除いた期間では幾分減少しています。本学では、昼夜みや無人の研究室、事務室の消灯を実施し、研究室や事務室に温度計を設置してエアコン電源のON/OFFを行っています。



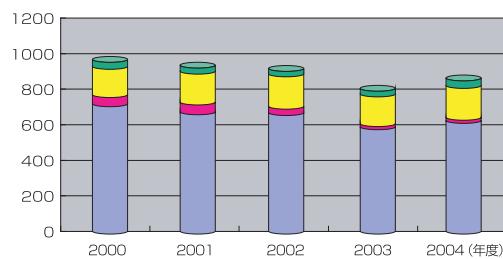
### 2) 都市ガス及びプロパンガスの使用量

使用量(Km<sup>3</sup>)

酷暑のため、ガスの使用量は5%増加しました。天白キャンパスでは大気汚染の観点から重油ボイラーよりガスボイラーを優先的に使用しています。

### 3) 重油

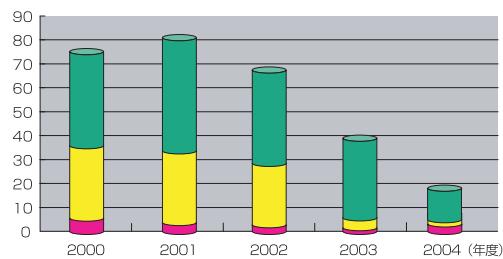
使用量(KL)



冷暖房用の燃料にはガスを優先的に使用していますが、04年度は酷暑の影響を受けて、重油は6%増加しました。

### 4) 灯油

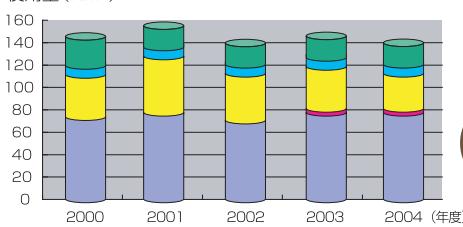
使用量(KL)



2004年度は酷暑でしたが、附属高校の2.3.4号館の空調機の運用管理により、灯油は全体として50%削減しました。

## 2 省資源

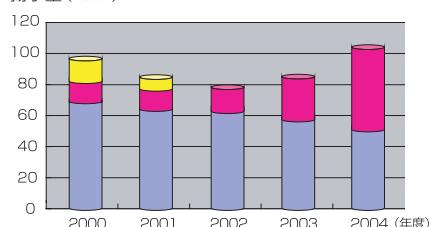
### 1) 市水の使用量

使用量(Km<sup>3</sup>)

市水使用量は4%減少しました。節水活動として、天白キャンパスでの冷却水の循環使用や天白、八事キャンパスでの女子トイレの擬音装置の設置等を推進しており、また、全学で漏水チェックを頻繁に行ってています。



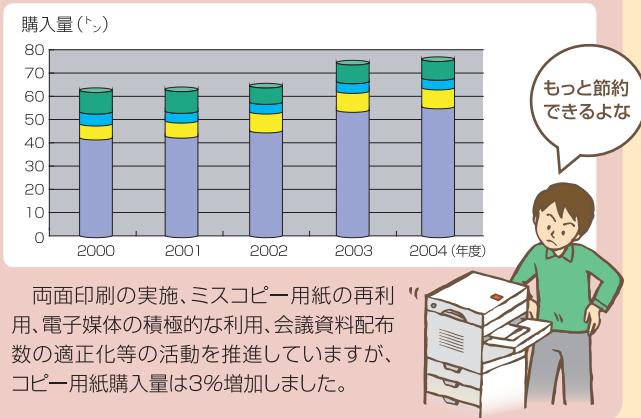
### 2) 地下水揚水量

揚水量(Km<sup>3</sup>)

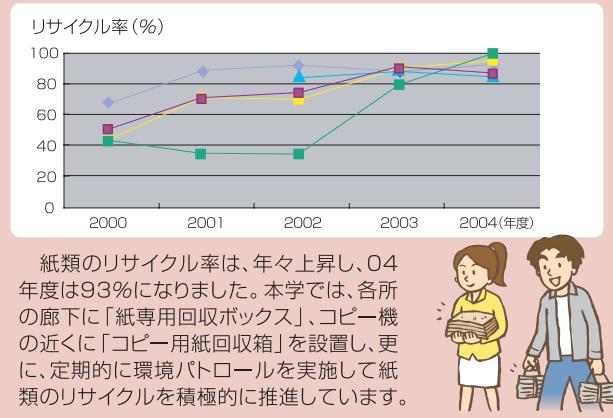
地下水揚水量は、天白キャンパスでは減少していますが、附属農場で大幅に增加了ため、21%増加しました。附属農場は、農作物の生育上、天候により散水量が左右され、酷暑の影響を大きく受けました。



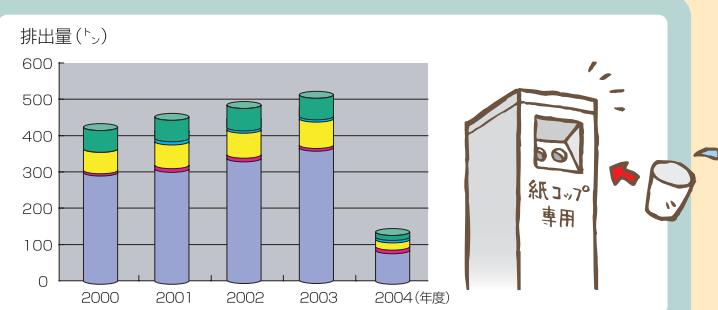
### 3) コピー用紙(PPC用紙)の購入量



### 4) 紙類のリサイクル

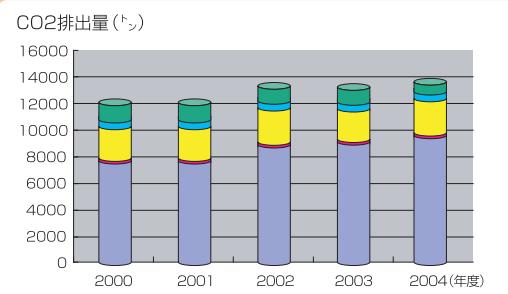


## 3 一般廃棄物排出量



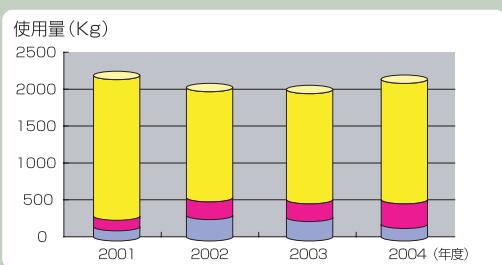
また、本学では紙ゴミのリサイクル化を推進するため、紙専用ボックスの設置、定期的な環境パトロールの実施等により、可燃ゴミから紙ゴミを排除する運動を実施しています。

## 4 地球温暖化



## 5 PRTR対象化学物質

### 使用量の推移



EMS活動の一環として、PRTR対象化学物質の使用量を毎年1%削減することにしていますが、八事キャンパスで使用量や廃薬品の処分量が増え、04年度は6%増加しました。



■ 附属高等学校 ■ 可児キャンパス ■ 八事キャンパス ■ 附属農場 ■ 天白キャンパス ■ 大学全体

### 【省エネ対象項目と削減目標】

省エネ対象項目	電 气	気体燃料		液体燃料		市 水	井 水	コピー用紙	一般廃棄物
		LNG	LPG	重油	灯油				
2008年度の削減目標値*	6~7% 削 減	6~8% 削 減	5~8% 削 減	7%削減	7%削減	6~14% 削 減	4%削減	15%削減	15~30%

\*削減目標はキャンパスにより異なります。



# 特別報告 ~アンケート調査結果~

## ISO 14001認証取得による教職員および学生の環境意識の変化

総括環境管理責任者 伊藤 政博 (教授・理工学部環境創造学科)

### 1 背景

近年、地球温暖化などの環境問題が深刻化し、京都議定書の発効に伴い、温室効果ガス（二酸化炭素など）の排出量を削減する動きが活発化してきている。その削減方法のひとつにISO14001による環境マネージメントシステム（以下、EMS）を各企業等の組織が構築して運用を図る方法がある。ISO14001は環境に関する国際規格であり、環境方針および目的を自主的に定め、EMSを運用するものである。2005(平成17)年6月の時点で、18,551の自治体、企業等がISO14001を認証取得しており、教育機関に注目すると、44の大学が認証取得<sup>1)</sup>している。



### 2 目的

名城大学および附属高等学校は、平成14年6月23日にISO14001を認証取得し、平成17年6月に認証更新の審査を受け、運用4年目に入っている。ISO14001認証取得以来、EMS運用により、環境に配慮した大学へと変化するべく努力している。そのスパイラルアップの証（ベンチマーク）を調べる手段として、アンケート調査を行ってきている。

この報告は、国際環境規格ISO14001を認証取得して以来、大学教職員680名と附属高等学校教員99名の構成員、学生大学院生15,906名および附属高等学校生徒1,957名の構成員の意識が、どのように変化している/変化していない、かについて教職員および理工学部環境創造学科の学生を対象に行ったアンケート調査に基づいて調べる。

名城大学は教職員や学生に対して、HP、環境ガイド（冊子）およびISO14001フォーラムを通じてEMSの運用を呼びかけ、また定期的に内部環境監査を行ってPDCAのスパイラルアップを図ってきている。

なお、天白キャンパスは「エネルギーの使用の合理化に関する法律（略称：省エネ法）」に基づいて、電気の第一種エネルギー管理指定工場に指定され、エネルギー消費原単位を年平均1%以上低減する義務が発生している。現在、電気の使用量の低減に向け、鋭意努力していますが、増加傾向は留まる気配がありません。……これに関連して皆さんに協力を依頼しています。

すなわち、次の場面に出会ったらスイッチをオフに!!!!

- ① 授業がなく、誰もいない教室に蛍光灯のみが点燈
- ② 昼食等で研究室内・クラブ室内等のパソコンを使用しない時
- ③ 昼食等で研究室・実験室が全く不在になる時の蛍光灯
- ④ 研究室・実験室内に電源の入った不使用機器がある（担当教員に確認）
- ⑤ トイレの使用後は消灯

.....



これらがどの程度守られているか、次の1)~13)について、調べた。

## 2-1 教職員の意識

- 1) 名城大学のISO14001
- 2) 日常、環境に配慮した行動
- 3) 地球環境問題
- 4) 名城大学のISO14001認証取得によって、学部長および各サイト  
推進責任者の環境に関する意識と行動の変化
- 5) クリーンアップ大作戦

## 2-2 学生(環境創造学科)の意識

- 6) 名城大学がISO14001を認証取得していることを知っているか否か
- 7) 環境方針<sup>3)</sup>の周知度
- 8) 未使用時の教室等の消灯
- 9) 未使用時のパソコン等のスイッチOFF
- 10) 講義室にゴミを放置しない
- 11) 分別BOXの活用
- 12) 紙回収BOXの活用
- 13) 節水



## 3 教職員を対象にした調査

平成17年6月にISO14001の認証更新のために、外部審査が行われた。その折に、学部長および推進責任者(学科長、事務長および附属高校学校教頭)を対象に調査を行った。回収数は、各サイト合わせて57部であった。

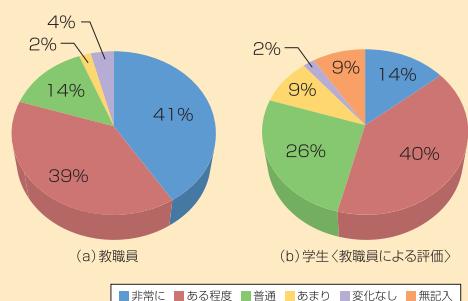
### 3-1 ISO14001認証取得による学部長および各サイトの推進責任者の環境に関する意識

環境に関する意識と行動の変化が図-1(a)に示してある。この図から、非常に変化した(41%)、ある程度変化した(39%)を併せると、80%の人が意識や行動に変化があったことが分かる。また、学生の環境に関する意識と行動の変化について、教職員の評価を調べた結果が図-1(b)に示してある。この図から、非常に変化した(14%)、ある程度変化した(40%)を併せると、54%の人に意識と行動に変化がある。

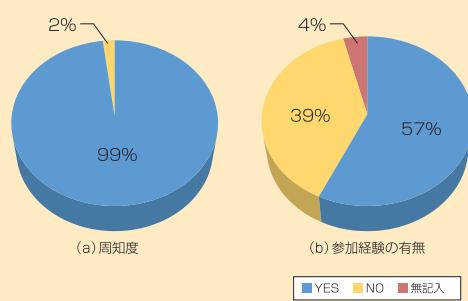
### 3-2 クリーンアップ大作戦

大学周辺の町の道路(大きな道路では歩道)などを清掃するクリーンアップ大作戦が、平成15年12月から始まり、毎月一回行なわれている。毎回、平均50名程度の学生・教職員・業者の方が参加している。クリーンアップ大作戦が行われていることを知っているか否か、を調べた結果が図-2(a)に示してある。この図から、回答者のほぼ全員が知っていることが分かる。また、この図で知っていると回答した人のうち、クリーンアップ大作戦へ参加したことがあるか否か、を調べた結果が図-2(b)に示してある。この図から、57%の方が参加していることが分かる。

■ 図-1 ISO14001認証取得による意識と行動の変化



■ 図-2 教職員におけるクリーンアップ大作の周知度と参加経験の有無



## 4 学生を対象にした調査

ISO14001認証取得を機に毎年、理工、農、薬の3学部で環境関連科目を受講している調査を行ってきていた。そのなかで、平成17年7月に行った理工学部環境創造学科の2~4年までの学生が答えた356部について整理した。また、比較のため3年前の平成15年10月に行われたアンケートの調査結果(回収数:195部)も用いた。

### 4-1 ISO14001の認証取得と更新

図-3(a)は、名城大学がISO14001を認証取得していることを知っているか否か、を調べた結果を示す。この図から、環境創造学科の学生の81%が、知っていることが分かる。また、図-3(b)は、平成17年6月に認証の更新審査が行われたことを知っているか否か、を調べた結果を示す。この図から、ISO14001認証の更新は、ほんの20%の学生のみが知っているとしている。このことから、学生はISO14001認証の更新をまだ十分知らないことが分かる。

### 4-2 環境意識

図-4は、①環境方針の内容の周知度、②環境ガイド(冊子)の内容の周知度、③HPの閲覧状況および④環境方針カードの携帯について調べた結果である。この図から、4つの項目における回答は20~31%であることが分かる。特に、環境方針カードを携帯している学生は20%と、実行状況はあまり良くない。

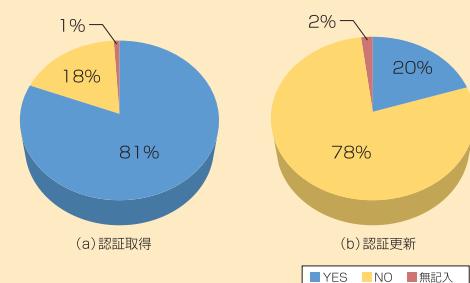
### 4-3 クリーンアップ大作戦の周知度

この結果が図-5(a)に示してある。この図から、環境創造学科の学生の67%がクリーンアップ大作戦を知っている。さらに、知っている学生に、クリーンアップ大作戦に参加した経験の有無を調べた結果が図-5(b)に示してある。この図より、参加した学生はほんの16%であった。このことから、クリーンアップ大作戦は、まだ学生に十分浸透していない。

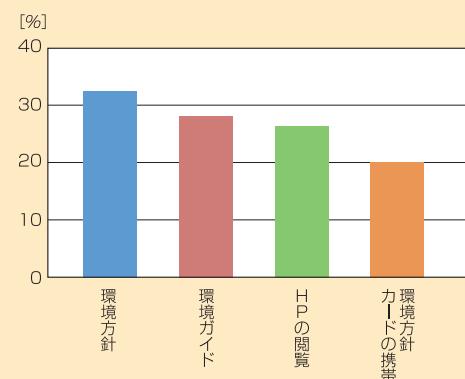
### 4-4 学生による評価

名城大学は、7項目の環境方針<sup>3)</sup>がある。この方針が本学でどの程度実施されているかを学生が評価した結果が、図-6に示してある。この図から、非常に(3%)、ある程度(14%)を併せると、17%の学生が評価しているのみである。また、49%の学生が未記入であり、学生の多くは、ISO14001の具体的な内容まで理解していないことが分かる。

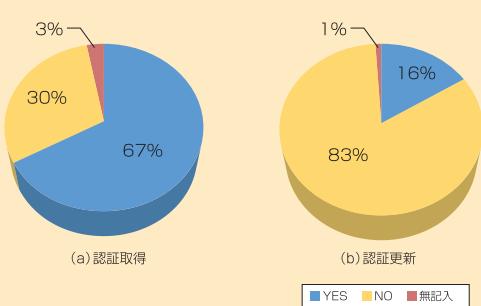
■ 図-3 ISO14001認証取得と更新



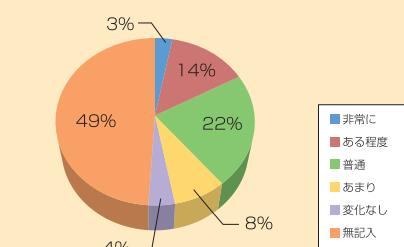
■ 図-4 ISO14001の内容について



■ 図-5 クリーンアップ大作戦の学生への周知度と参加経験の有無



■ 図-6 学生による環境方針の実行状況の評価





# 名城大学環境ガイド 2006

発行 / 名城大学 経営本部 施設部  
住所 / 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501  
TEL / 大代表 052-832-1151(内線2169、2091)  
ダイヤルイン 052-838-2011  
FAX / 052-833-5523  
URL / <http://www.meijo-u.ac.jp/>  
E-Mail / [ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp](mailto:ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp)



この大学案内誌は古紙配合率100%  
再生紙と環境にやさしい植物性大豆  
インキを使用しております。